



# 小城市立歴史資料館 \* 中林梧竹記念館だより

## 8月4日は中林梧竹の命日です

小城出身の書聖中林梧竹は、大正2(1913)年8月4日に87歳で亡くなりました。

現在、開催中の展示会では亡くなった年に書かれた作品も展示しています。108年前の作品をゆっくりご覧ください。

### ◆期間

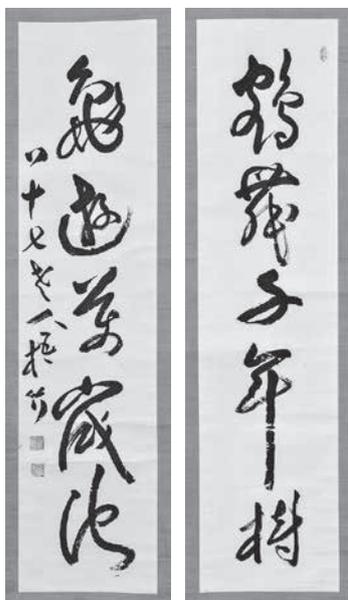
～9月5日(日)

### ◆場所

中林梧竹記念館  
常設展示室

◆観覧料 200円  
(大学生以下無料)

鶴舞千年樹(右)  
亀遊万歳池  
八十七老人梧竹(左)  
梧竹が長寿を願って書いた作品です。



## 土生遺跡発見50周年事業について

昭和46(1971)年8月に発見された土生遺跡は今年で発見50年目になり、再来年で国指定史跡として50年目になります。

これを記念して小城市立歴史資料館では今後さまざまなイベントを開催していきます。



▲発見当時の現地説明会の様子

## おぎの歴史探検隊

### 柳生新陰流と小城藩〈その1〉

小城藩初代藩主・鍋島元茂は柳生新陰流の達人で、徳川家三代将軍・家光の打太刀役として稽古相手を務めました。師匠に当たる柳生宗矩(但馬守)の信頼が厚く、正保3(1646)年、宗矩が臨終近くの時、元茂に与えた家伝書の花押(サイン)は、元茂の家臣に体を支えられながら書き終え、「乱れ花押」と言われて有名です。(この「家伝書」は、天理大学に所蔵され、活字化され刊行物で見ることができます。二代藩主直能は原本の損傷を恐れ、写本を作りましたが、これも筑波大学所蔵となっているそうです)

これに先立って元茂は元和4(1618)年、宗矩から「見之巻」「観之巻」などを与えられています。しかし、元茂の能力、技量がどの程度のものであったのでしょうか、剣術の稽古では「打太刀(打方)」と

「仕太刀(仕方)」として相対し、「打太刀」が切りかかって来るのを「仕太刀」がどう防御するか。たとえば言うところ「師匠」が切りかかって来るのを「弟子」が受け止めるというような稽古ですが、ある時家光は、宗矩が「無刀取り」の技ができるとあって、元茂の「打太刀」を「無刀取り」できるかとけしかけました。宗矩は「無刀取り」を果たし、元茂の打太刀を「無刀取り」できるのは自分以外にいないと言ったといわれ、元茂の技量を高く評価しています。(無刀取りとは、「刀を取る事ではなく、切られないということ」とされます=活人剣・無刀之巻)(続)



▲元茂肖像

小城郷土史研究会／著

◆開館時間 9時～17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索  
【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132